

島田の作家・hinakaさんデザイン

エシカル文具

木製ボールペン「ペノン」

刺しゅうでヒット



ノック部分に刺しゅうの旗が飾られた「フラッグペン」

プラスチックを極力使わない「エシカル文具」として昨年発売された木製ボールペン「PENON(ペノン)」のデザインを島田市の刺しゅう作家hinaka(本名・杉本日菜花)さんが手掛け、一見文具に見えないかわいらしさが注目を集めている。杉本さんは「何げなく手に取った文具が環境を意識するきっかけになればうれしい」と制作に励んでいる。

デザインするのはボールペンのノック部分に縦1・8センチ、横3センチの小さな旗が飾られた「フラッグペン」。リスや鳥、ネコなどをモチーフに、レーヨン糸を使ったミシン刺しゅうで絵本のような世界を表現する。動物の表情などを細部まで描くため、専用ソフトに針の位置を指示する作業を何度も重ねて調整し、作品が完成する。

母親手作りの服を着て育ち、小学生から裁縫が趣味だったという杉本さん。静岡文化芸術大学デザイン学部を卒業後に玩具メーカーなど2社で商品企画やデザインを経験後、島田市にUターンし、刺しゅう小物やアクセサリーの創作に本腰を入れるようになった。フラッグペンは2021年9月の発表以来、文具好きの女性を中心にヒットし、現在

「環境意識するきっかけに」

フラッグペンに使用している刺しゅうを紹介する杉本日菜花さん＝5月末、島田市内のアトリエ



は全国の東急ハンズ、ロフトなどに取り扱いが広がる。製造・販売するペノン(東京都)の長岡美千子社長は「無機質で使い捨ての感覚が強かったボールペンにぬくもりが加わり、一段価値が上がったような感覚」と話す。杉本さんはペノンのデザインに加え、今後はアート作品の再現やアクセサリー製作にも取り組む予定。「愛着を持って物を長く使うこともエコ。作品にそんなメッセージを乗せていきたい」と話している。(島田支局・中村綾子)

芯を回収、脱プラ徹底

「ペノン」は本体の木軸に森林認証された木材を使い、替え芯を購入した際には使用済みの芯をメーカーに無料で送り返して回収・リサイクルを行う商品。脱プラスチックを徹底し、森林認証紙を使ったパッケージは広げて組み立てるとペン立てになるという仕掛けもある。

杉本さんがデザインする「フラッグペン」に加え、クリップ部分に眼鏡やネクタイの飾りを付けたシリーズなどを展開している。県内では東急ハンズ静岡店や島田市のJR島田駅前サンカクキッチンなどで取り扱っている。